

平成 21 年度墨田区予算案発表資料概要（平成 21 年 2 月 9 日）

～水と歴史のハーモニー～ 人が輝く いきいき すみだ

平成 21 年度の重点施策

防犯・防災 災害に強く防犯力が高いまちにするための施策

中高層住宅における防災対策の普及・啓発（1－）

住宅用火災警報器の整備（1－）

地域防犯環境の改善（1－）

学校施設の整備（1－）

子育て・教育 安心して子育てができ、豊かな人間性をもった子どもたちを育むための施策

保育園待機児童解消策の推進（2－）

学校のICT化の推進（2－）

小学校英語活動の推進（2－）

学校支援ネットワーク事業の実施（2－）

環境 地球にやさしい「環境の共創」を推進するための施策

「すみだ環境区宣言（仮称）」の実施及び推進（3－）

地球温暖化対策地域推進計画の実践（3－）

緑と生物の現況調査（3－）

まちづくり 地域で快適に暮らせる「すみだ」をつくるための施策

高度地区の指定区域拡大（4－）

曳舟駅周辺地区の整備 - 曳舟駅前地区再開発 -（4－）

曳舟駅周辺地区の整備 - 京成曳舟駅前東地区再開発 -（4－）

京成押上線立体化の推進（4－）

学校跡地活用の推進（4－）

基本計画を着実に推進していくための施策

観光協会の運営及び事業補助（5－）

忠臣蔵サミットの開催（5－）

地域ブランド戦略の推進（5－）

空き店舗を活用した回遊拠点の設置（5－）

ミニサポート事業実施に対する支援（5－）

施設介護ボランティア・ポイント付与制度の実施（5－）

障害児デイサービス施設・障害者生活介護施設の整備（5－）

予防接種の充実（5－）

受動喫煙防止対策の充実（5－）

地域プラザの整備（5－）

「すみだ やさしいまち宣言」の推進（5－）

墨田区体育館の改築（5－）

東京マラソン招致活動（5－）

東京スカイツリー関連 東京スカイツリーに関連して実施する施策

北十間川水辺空間の整備（6－）

東京スカイツリー周辺主要道路の景観整備（6－）

環境ふれあい館（仮称）の整備（6－）

- 景観まちづくりの推進 (6 -)
- 北斎館(仮称)の整備 (6 -)
- 大横川親水公園の歩行者空間再整備 (6 -)
- 舟運活用策の検討 (6 -)
- 区内循環バス運行計画の策定 (6 -)

緊急経済対策 平成 21 年度予算で実施する施策

- 商工業融資「経営安定化資金」の追加拡充
- 公共事業の早期発注の実施
- 区内企業への就職促進

墨田区緊急経済対策のうち平成21年度予算で実施する事業

平成21年1月15日に発表した墨田区緊急経済対策のうち、平成21年度予算で措置されているもの

商工業融資「経営安定資金」の追加拡充

景況悪化の影響を受けている区内中小企業への緊急対策として、商工業融資の「経営安定資金」に係る信用保証料を平成20年10月31日から期間限定で2分の1補助しているが、これをさらに拡充し、全額補助する。なお、実施にあたっては、平成20年10月31日受付分まで遡及する。

信用保証料 2分の1補助 全額補助
実施期間 平成20年10月31日から平成21年6月30日受付分まで
あっ旋金利 2.2% (実質負担0.2%) 利子補助の期間は最長6年間

81,000千円

公共事業の早期発注の実施

次の区発注工事（平成20年度から平成21年度にかけて行う工事）について、平成20年度中に発注する。

- ・曳舟幼稚園園舎改築工事

180,000千円

（平成20年度から平成21年度への繰越明許）

次の区発注工事について、できるだけ早く設計及び契約手続きに係る事前準備を完了させ、平成21年4月に発注する。

- ・路面改修工事現況測量・実施設計委託
- ・路面改修工事（2件）

76,500千円

次の区発注工事について、できるだけ早く設計及び契約手続きに係る事前準備を完了させ、平成21年度早期に発注する。

- ・両国小学校屋内運動場耐震補強工事
- ・八広幼稚園園舎改築工事

230,000千円

（平成20年度から平成21年度への繰越明許）

区内企業への就職促進

区内企業への就職をサポートする事業の一環として、40歳未満の求職者の就職や雇用が円満に図れるよう、区内企業を訪問する企業見学会を年6回開催している。

区内企業への雇用をさらに促進するために、本区が実施している「企業見学会」とハローワークが雇用対策の一環として進めている「トライアル雇用」事業とを直結させ、区から奨励金を併給する。

ハローワークが実施している「トライアル雇用」に登録した企業の中から、区内ものづくり企業で「企業見学会」に参加し、常用雇用を前提とした試行雇用に至った企業に対して、ハローワークからの所定の試用雇用奨励金に併せて、区からも1ヶ月4万円（最高3ヶ月 12万円）の奨励金を支給する。

4,800千円

計 572,300千円
平成20年度分との合計 895,873千円

件名	中高層住宅における防災対策の普及・啓発
予算額	2,000千円
主旨	<p>中高層住宅では、地震発生時に揺れが増幅するおそれがあるため、低層住宅に比べ家具等の転倒が発生しやすく、またエレベーター閉じ込めなど特有の被害の発生が危惧されている。また、このような直接被害のほか、エレベーター停止に伴う復旧期の生活困難などの二次的被害の発生も想定される。</p> <p>その一方で、中高層住宅は、一般に耐震性が高く、地震による建物自体の被害は少ないと考えられている。このような中高層住宅の居住者が、居室内の安全確保など事前に適切な対策を講じることで、より一層身の安全を確保することができ、さらに被害を受けなかった居住者が地域と連携して災害対策活動を行うことにより、地域全体の被害を軽減することも可能となる。</p> <p>そこで、中高層住宅居住者の防災対策促進のための普及・啓発を行う。</p>

件名	住宅用火災警報器の整備
予算額	18,619千円
主旨	<p>平成18年3月に東京都の火災予防条例が改正され、平成22年4月1日からすべての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務化された。</p> <p>このことを受けて、墨田区では平成20年度から、火災の早期発見及び火災発見の遅れによる逃げ遅れを防止するため、災害時要援護者である高齢者と障害者の住宅に火災警報器を無料で設置する「火災警報器の給付事業」を実施している。</p> <p>今後さらに火災警報器の普及促進を図るため、平成21年度は「火災警報器の給付事業」対象枠を拡充して引き続き「火災警報器の給付事業」を実施する。あわせて、区民に対して住宅用火災警報器の普及・啓発を図っていく。</p>

1 -

件名	地域防犯環境の改善
予算額	20,000千円
主旨	<p>ひったくり・痴漢等の街頭犯罪や侵入盗、子どもを狙った犯罪などを未然に防止し、「安全・安心なまち すみだ」を実現するため、モデル地区を指定し、防犯設備の設置促進や青色防犯灯の設置など、街頭犯罪が発生しにくい環境を継続的に整備していく。あわせて、地域住民による自主防犯活動を促進し、防犯意識の向上を図る。</p>

1 -

件名	学校施設の整備
予算額	1,764,213千円
主旨	<p>学校施設は、児童・生徒が1日の大半を過ごす「生活の場」であると同時に、大震災等の際に、地域住民が一時的に生活する避難所の役割を果たすことから、安全性を備えていることは必要最低限の条件である。</p> <p>そこで、以前の旧耐震基準で建てられた小中学校の校舎・屋内運動場、幼稚園園舎の改築・耐震補強を順次実施する。</p> <p>学校を含む区の公共施設の耐震化については、平成20年3月に策定した「墨田区耐震改修促進計画」で平成27年度までに耐震化を完了することとしているが、学校施設については、計画を前倒しし、統廃合の対象となっている一部の施設を除き、平成23年度までに耐震化を完了させる。</p>

件名	保育園待機児童解消策の推進
予算額	318,405千円
主旨	<p>この数年、墨田区では、地下鉄の開通等公共交通機関の利便性の向上や新しいマンションの建設などに伴い、子育て中のファミリー世帯が増加傾向にあり、保育需要は年を追うごとに高まっている。</p> <p>そこで、区では、増加する保育需要への対応と多様な保育サービスの拡大を図るため、「墨田区保育園待機児童の解消を目指す緊急3ヵ年計画」を平成20年6月に策定した。</p> <p>この計画に基づき、平成21年度は、新園を建設する社会福祉法人への補助や新たな保育サービス等を実施し、待機児童の解消を目指していく。</p>

件名	学校のICT化の推進
予算額	148,888千円
主旨	<p>現在、小中学校の教職員は、日常の校務事務に追われ、児童・生徒に対する指導や教材研究等に十分に集中できる環境が整っていない。そこで、学校のICT（情報通信技術）化を推進し、教職員の校務事務負担を軽減させ、児童・生徒一人ひとりと向き合える時間を増やし、教育環境の向上を図る。また、ICT化の推進により学校内や学校間、教育委員会とのネットワーク化を進めるとともに、学校における個人情報保護の徹底も図っていく。</p> <p>平成21年度は、ICT基盤整備として、LAN（ネットワーク）設計・構築、教職員へのパソコン配備、グループウェアの導入を行い、各学校での研修も実施する。今後は、校務システム本稼動、プロジェクターや電子黒板等の情報機器、教育用ソフト等を順次導入していく。</p>

件名	小学校英語活動の推進
予算額	62,148千円
主旨	<p>現在、墨田区の小学校第5学年及び第6学年は、年間5時間の英語活動を行っているが、新学習指導要領では、平成23年度より小学校第5学年及び第6学年を対象としてコミュニケーション能力の素地を養うことを目指した英語活動が年35時間実施されることとなっている。</p> <p>これに伴い、墨田区では、平成23年度の完全実施に向けて小学校第5学年及び第6学年を対象に時間数を拡大した区独自の英語活動を段階的に導入する。</p> <p>実施にあたっては、カリキュラムや教材等の作成、外国人英語指導助手の派遣等を行い、小学校における英語活動を推進する。</p>

件名	学校支援ネットワーク事業の実施
予算額	2,279千円
主旨	<p>近年、学校現場では、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する中で、学力向上や豊かな心の育成、体力向上など様々な教育の諸課題に早急に対応することが必要となっている。</p> <p>このような中、各学校では、様々な学校支援ボランティアが教員をサポートし、学校を支える活動を行っており、学校教育の質の向上が図られている。しかし、学校ごとにボランティアの需要数等が異なり、求める人材が不足する学校も見受けられることから、ボランティアを学校の実情に合わせてコーディネートする地域人材の養成と、体系的・継続的に学校を支える仕組みづくりが必要となっている。</p> <p>そこで、地域全体で学校教育を支援するため、学校と地域を結ぶ架け橋づくりとして「学校支援ネットワーク事業」(学校支援地域本部事業)を立ち上げ、学校と学校支援ボランティアをつなぐ役割を担う「地域コーディネーター」を配置し、教育活動に地域人材の積極的な活用を図る。これにより、学校・家庭・地域が一体となって、教育環境の向上を推進していく。</p>

件名	「すみだ環境区宣言（仮称）」の実施及び推進
予算額	5,820千円
主旨	<p>墨田区が平成12年7月に行った「人」と「地域」と「環境」にやさしいまちづくりをめざす「すみだ やさしいまち宣言」は、平成21年7月に10周年を迎える。</p> <p>これを契機に、地球温暖化防止をはじめとする区民・事業者の環境への関心の高まりを、環境にやさしい実践行動の普及に結びつけることを目的として、「すみだ環境区宣言（仮称）」を行い、環境への取り組みを宣言する。あわせて、東京スカイツリー建設を契機とした環境のまちづくりの一層の推進を図り、環境にやさしいまちすみだを区内外にアピールする。</p>

件名	地球温暖化対策地域推進計画の実践
予算額	21,284千円
主旨	<p>墨田区では、深刻化している地球温暖化を防止することを目的として、平成20年3月に「墨田区地球温暖化対策地域推進計画」を策定した。この計画に基づき、区民、事業者が積極的に地球温暖化防止に取り組めるよう、平成20年7月から太陽光発電システムなどの二酸化炭素を削減できる設備を導入する方への助成制度を開始した。</p> <p>平成21年度は、更に地球温暖化防止を推進させるため、助成額を増額するとともに、助成対象に燃料電池発電給湯器等を加えて一層の充実を図る。</p>

件名	緑と生物の現況調査
予算額	21,000千円
主旨	<p>墨田区では、昭和47年に「緑化宣言」を行って以来、平成7年に「緑の基本計画」を策定するなど、積極的に緑化推進事業を行ってきた。その結果、昭和48年に5.4パーセントだった緑被率が平成12年には9.4パーセントに増加したが、区民の多くが緑が充分あり快適と感じる状況には至っていない。</p> <p>また、区内の生物の生息及び分布の状況についても、地球温暖化の生態系への影響も含め、最新の実態を把握する必要がある。</p> <p>そこで、あらためて区全域の緑被率等の緑の分布状況などを把握するとともに、区内の生物環境がどのように推移しているかを把握するため、「緑と生物の現況調査」を実施する。</p> <p>また、調査の結果は、すみだ環境ふれあい館で推進する自然環境学習や、都市型エコツアーのルートづくりなどにも活用していく。</p>

件名	高度地区の指定区域拡大
予算額	7,320千円
主旨	<p>建築物の高さ制限については、平成16年の用途地域等の見直しにおいて、街並みのスカイラインを整えるため、主要幹線道路沿道と主に区南部地域に絶対高さ制限を指定した。一方、絶対高さ制限を指定していない地域では、マンション建設の増加や天空率等による高さ制限の緩和により、街並みから突出した高さの建物が建築されている。</p> <p>そこで、このような状況を改善するため、各地域に適切な絶対高さ制限を導入し、良好な街並み景観の誘導を行う。</p>

件名	曳舟駅周辺地区の整備 - 曳舟駅前地区再開発 -
予算額	2,234,030千円
主旨	<p>墨田区北部地域の広域拠点の形成を目指し、京成押上線の立体化事業に合わせたまちづくりを推進する。具体的な取り組みとして、曳舟駅周辺の再開発事業を推進し土地の高度利用を図るとともに、商業・業務機能と都市型住宅の供給をバランスよく配置した複合市街地を形成し、活力と魅力あるまちづくりの推進を図る。</p>

件名	曳舟駅周辺地区の整備 - 京成曳舟駅前東地区再開発 -
予算額	293,865千円
主旨	<p>墨田区北部地域の広域拠点の形成を目指し、京成押上線の立体化事業に合わせたまちづくりを推進する。具体的な取り組みとして、京成曳舟駅周辺の再開発事業を推進して土地の高度利用を図るとともに、商業・業務機能と都市型住宅の供給をバランスよく配置した複合市街地を形成し、活力と魅力あるまちづくりを推進する。</p> <p>京成曳舟駅前東地区では、地域の実情に合わせた再開発を段階的に進めるため、地区を第一・第二南・第二北・第三の4つに分けて事業を進めている。</p>

件名	京成押上線立体化の推進
予算額	533,861千円
主旨	<p>現在、京成押上線の押上～八広駅区間は、立体化されていないことから、踏切による渋滞・事故の発生をはじめとして、地域が分断された状態になっている等の問題が生じている。</p> <p>このため、鉄道と道路を立体交差化させ踏切を除却することにより、踏切による慢性的な交通渋滞を解消し、鉄道・道路それぞれの安全性の向上を図る。また、高架化された鉄道に沿って環境の保全と円滑な地域内交通の確保を図るために側道を整備する。これらのことにより、これまで鉄道で隔てられていた地域の一体化を実現し、沿線まちづくりの推進を図る。</p>

件名	学校跡地活用の推進（大学の誘致等）
予算額	4,700千円
主旨	<p>本区は、23区の中で大学が所在していない唯一の区である。大学を誘致することによって、地域活性化、教育や文化水準のさらなる向上などが期待できる。</p> <p>また、特別養護老人ホームの待機者解消は、区の喫緊の課題の一つであり、特別養護老人ホームを整備する必要がある。</p> <p>そこで、区立学校統合跡地を活用して、大学及び特別養護老人ホーム等を誘致する。</p>

件名	観光協会の運営及び事業補助
予算額	109,409千円
主旨	<p>墨田区では、平成20年1月に改訂した「墨田区観光振興プラン」の計画目標である「新タワーを活かし、住んでよく訪れてよい 国際観光都市すみだをつくる」の実現に向け、区及び区民・事業者・関係団体が連携を図っているところであるが、更に積極的な観光事業を展開するためには、中核となる組織が必要となっている。</p> <p>そこで、現在は任意組織である「墨田区文化観光協会」を「一般社団法人 墨田区観光協会」として法人化し、組織体制・財政基盤の強化も図るとともに、民間事業者としてのメリットを活かした事業を展開していく。なお、新法人は、平成21年度から事業を開始し、従来行ってきた事業に加えて、東京スカイツリーの開業に向けた観光振興事業を推進していく。</p>

件名	忠臣蔵サミットの開催
予算額	2,700千円
主旨	<p>本会議は「忠臣蔵ゆかりの地等」が所在する全国の自治体（別添資料参照）が参加し、お互いの親善と友好を深めながら全国的な連帯のもと、「忠臣蔵」に関わる取り組みと情報交換を行い、地域の活性化と発展向上のため協力していくことを目的に発足したものである。平成元年に最初の会議が開催されて以来、毎年1回、各参加都市が持ち回りで開催している。</p> <p>墨田区は、第1回会議から参加し、平成5年の第5回会議では、開催市として吉良町に初めての参加を働き掛け、赤穂と吉良の291年ぶりの和解を取り持った。</p> <p>平成21年度は、東京スカイツリーの建設が始まった墨田区で16年ぶりに第21回会議を開催することとなった。今回の会議を契機に、今なお国民的な人気を誇る「忠臣蔵」を観光資源として活用するとともに、平成24年春の東京スカイツリー開業に向けて進めている国際観光都市づくりの推進につなげていく。</p>

件名	地域ブランド戦略の推進
予算額	29,000千円
主旨	<p>東京スカイツリーの開業を一つの契機として、産業のまちとして発展してきた「すみだ」の知名度を高め、その付加価値を向上させるとともに広く内外に認知してもらうことを目的として、すみだの地域ブランド戦略を推進する。</p> <p>地域ブランド戦略の推進は、平成20年度に「すみだ地域ブランド戦略推進検討委員会」で検討したコンセプト・推進手法（別紙参照）に基づき、経年的・段階的に実施していく。</p>

件名	空き店舗を活用した回遊拠点の設置
予算額	7,520千円
主旨	<p>平成24年の東京スカイツリーの開業により増加が見込まれる観光客等来街者の区内での回遊を促すとともに、観光拠点や商店街等の活性化を図るため、商店街の空き店舗等を活用して、観光案内、お休み処、地域住民のコミュニティの場となる回遊拠点を設置する。</p>

件名	ミニサポート事業実施に対する支援
予算額	963千円
主旨	<p>現在、墨田区社会福祉協議会において、地域ボランティアが高齢者や障害者等の日常の家事等を援助する「会員制有料在宅福祉サービス」を実施しているが、今後は、有料会員制にするほどには至らない短時間かつ緊急性の高いニーズにも対応する必要がある。</p> <p>そこで、墨田区社会福祉協議会では、平成21年度から「会員制有料在宅福祉サービス」のミニ版として、サポーター（協力員）を広く公募し、年会費を必要としない単発的な要望に対応する</p> <p>「ミニサポート事業」を実施することとなった。この必要経費等について、区が支援を行う。</p>

件名	施設介護ボランティア・ポイント付与制度の実施
予算額	1,660千円
主旨	<p>現在、墨田区内の65歳以上の高齢者の約9割は、介護を必要としない、いわゆる「元気高齢者」であることから、区では、元気高齢者の生きがいづくりを行うとともに、介護人材の不足を補い、介護施設利用者のサービスの向上を図るため、元気高齢者に介護人材として地域で活躍できる機会を提供している。</p> <p>平成21年度は、元気高齢者のボランティア活動への意識を一層高めるとともに、ボランティア活動にやりがいを感じてもらうため、介護施設でのボランティア活動の時間を現金に還元できるポイント付与制度を実施する。</p>

件名	障害児デイサービス施設・障害者生活介護施設の整備
予算額	56,789千円
主旨	<p>乳幼児期の子どもに発達の遅れが見られる場合、障害の早期発見・早期療育が最も重要であることから、心身障害児の療育施設の利用希望者は年々増加しており、区内唯一の幼児通園療育施設「みつばち園」だけでは需要に対応できない状況にある。</p> <p>とりわけ近年急増している「発達障害」など障害の多様化・重度化・重複化が進む中、個々の発達段階や障害特性に合わせた、よりきめ細かな対応や就学後の支援策等を希望する声も増えてきており、療育の場の増設とともに新たな課題への取り組みも強く求められている。</p> <p>また、重度の心身障害者が地域社会の一員として生活するためには、日中活動の場となる生活介護施設が不可欠である。現在、区内には重度知的障害者対象の施設「はばたき福祉園」と重度身体障害者（重複障害含む）対象の施設「亀沢のぞみの家・肢体不自由児者通所訓練所」の2事業所のみでの運営であるため、今後の利用者増（区外施設を退所し区内への地域移行者等も含める）を見込んだ新たな活動の場づくりが必要とされている。</p> <p>このため、平成22年4月を目途に、旧文花小学校校舎（文花1-32-9）南棟1階に「障害者自立支援法」に基づく障害児デイサービス施設及び障害者生活介護施設を開設し、より多くの障害児・者が必要なサービスを利用できる体制づくりをめざす。</p>

件名	予防接種の充実
予算額	52,632千円
主旨	<p>平成13年11月に予防接種法が改正された際に、高齢者については、定期の予防接種を行う必要がある疾病としてインフルエンザが対象となった。</p> <p>これを受けて墨田区では、現在、接種を希望する65歳以上の区民に対して接種経費のほぼ半額を助成していると同時に、生活保護受給者等一部に限定し、自己負担を全額助成している。</p> <p>これに加えて、平成21年度からは、75歳以上の区民については、インフルエンザ罹患による重症化等を勘案し、自己負担を全額助成する。</p>

件名	受動喫煙防止対策の充実
予算額	766千円
主旨	<p>平成15年5月に施行された「健康増進法」第25条に基づき、墨田区では、これまでもたばこ対策として禁煙支援等を実施してきたが、受動喫煙による健康被害は近年、より顕著なものになってきている。</p> <p>そこで、受動喫煙による健康被害を防止するため、食品衛生協会及び環境衛生協会等と連携を図りながら、事業所等への受動喫煙防止の普及・啓発を行う。</p>

件名	地域プラザの整備
予算額	32,250千円
主旨	<p>これからの公共施設は、区民の価値観やライフスタイルの変化、地域における課題の変化などに対応し、協治（ガバナンス）を実現するための拠点としての役割が求められている。</p> <p>そこで、区民が地域活動や地域交流を行うのに適したコミュニティ活動の拠点として、地域プラザを整備する。施設の整備にあたっては、協治（ガバナンス）を実践する場として、各施設の規模や機能、運営方針等について、地域住民等で構成するガバナンス会議において検討を重ね、整備基本計画等を策定していく。平成21年度においては、平成19年度に着手した旧第五吾嬬小学校跡地での地域プラザ整備についての検討をさらに進めていくほか、旧本所一丁目出張所跡地等における地域プラザの整備についても検討を始める。</p>

件 名	「すみだ やさしいまち宣言」の推進
予 算 額	14,700千円
主 旨	<p>墨田区では、「人」と「地域」と「環境」にやさしいまちづくりを目指し、平成12年7月に「すみだ やさしいまち宣言」を行い、区民との協働により、あいさつ運動や清掃活動など様々な運動に取り組んできた。</p> <p>この運動が、平成21年7月に10周年を迎えることから、これを記念する「すみだ やさしいまち宣言10周年記念事業」を実施し、「すみだ やさしいまち宣言」の運動をより一層推進していく。</p>

件 名	墨田区体育館の改築
予 算 額	12,004千円
主 旨	<p>墨田区体育館は、開館から約40年が経過し施設が老朽化していることに加えて、体育館機能に対する区民の要望が増えるとともに多様化し、現在の体育館では、この要望に応えることが困難な状況にある。</p> <p>そこで、区民の期待に応えられる総合体育館を民間の資金と経営能力・技術力を活用して、公共施設等の設計、建設、運営等を行うPFI手法により平成22年4月の開館を目指して現在の体育館がある区立錦糸公園（錦糸4 - 15 - 1）内に建設する。</p>

件 名	東京マラソン招致活動
予 算 額	800千円
主 旨	<p>日本を代表するスポーツイベントの一つである「東京マラソン」を墨田区に招致することにより、歴史と文化に彩られた墨田区及び平成24年にオープンする東京スカイツリーを広くPRし、地域活性化を目指す。</p> <p>併せてこの招致に成功すれば、限界に向けてチャレンジする選手や大会を支えるボランティアの姿を区の次代を担う子どもたちが間近に見ることができることから、スポーツ及びボランティア活動への興味・関心を高める機会となる効果が期待できる。</p> <p>さらに、東京マラソンの大会目的のひとつである「世界に向けて観光都市東京をアピールし経済波及効果の実現をめざす」というコンセプトにも合致する。</p>

件 名	北十間川水辺空間の整備
予 算 額	270,370千円
主 旨	<p>東京スカイツリーの建設を機に、江東内部河川の水辺空間を活かしたまちづくりと観光の推進を図るため、平成18年度に「北十間川水辺活用構想」を策定した。この構想に基づき、新タワー街区の南側を流れる北十間川（東武橋～京成橋区間）を新タワー水辺拠点ゾーンとして、親水テラス、人道橋、船着場、水質浄化装置などの北十間川の河川環境整備を行う。また、南側に隣接する道路についても、景観向上を図り、歩行者に配慮したコミュニティ道路の整備を行う。</p>

件名	東京スカイツリー周辺主要道路の景観整備
予算額	170,148千円
主旨	<p>東京スカイツリーの完成後には、本区に多くの来街者が訪れることになり、周辺道路は観光バス等の大型車をはじめ、車両通行量の増加が予測される。</p> <p>そこで、車道の耐久性向上を図るとともに、観光を楽しむ来街者の回遊性を高めるため、電線類の地中化を図るなど道路の景観整備を行う。整備箇所は、言問通り、桜橋通り、新タワー通り（仮称）の3路線である。</p>

件名	環境ふれあい館（仮称）の整備
予算額	28,100千円
主旨	<p>環境への負荷を減らし、よりよい環境の創造を目指し、墨田区から地球環境問題を解決していくため、子どもから大人までを対象にユニークで総合的な環境学習施設を東京スカイツリーが建設される押上・業平橋地区に整備する。</p> <p>同館は、東京スカイツリーの展望台から望める東京の水・緑・大気等自然の循環を映像等で体験学習できる施設として整備を進めるとともに、地球環境問題を解決するための最新技術や先進的な取組み等も学べる施設とする。また、東京スカイツリーと合わせ、区の観光の拠点として多くの来街者・観光客を呼び込み、地域の活性化を目指す。</p>

件名	景観まちづくりの推進
予算額	12,067千円
主旨	<p>景観形成に対する住民の関心の高まりから平成17年6月に景観法が施行され、良好な景観形成のための誘導・規制が位置づけられたことから、区では、平成20年3月に墨田区景観基本計画を策定し、区の景観形成の基本方針を示した。平成20年度は、景観法に基づく景観行政団体への移行を目指し、景観計画（素案）及び景観条例の検討を行っており、年度内の策定を予定している。</p> <p>平成21年度は、景観行政団体へ移行するとともに、景観計画及び景観条例を施行し、墨田区独自の景観まちづくりを推進する。</p>

件名	北斎館（仮称）の整備
予算額	177,890千円
主旨	<p>世界的に有名な画家 葛飾北斎（1760～1849年）が本所割下水（現在の墨田区亀沢付近）に生まれ、90年の生涯のほとんどを墨田区近辺で過ごしたことから、葛飾北斎の偉業を区民の誇りとして永く顕彰するとともに、新たな文化創造の拠点ともなる「墨田区北斎館（仮称）」の開設に向けて準備を進めていく。この施設は、東京スカイツリーとともに、本区が進める新たな国際観光都市づくりの核となるものである。</p>

件 名	大横川親水公園の歩行者空間再整備
予 算 額	28,000千円
主 旨	<p>大横川親水公園は、錦糸町地区、両国地区から東京スカイツリーの街区に通じる重要な歩行者周遊ルートに位置づけられる。しかし、平成5年に開園した同公園は、園路をはじめとする施設の老朽化が進んでいる。</p> <p>そこで、東京スカイツリーの建設に合わせ、園路等の改修やバリアフリー化、外国語を表記した案内看板等の再整備を行い、区民はもとより来街者が安全・安心に散策を楽しめるような歩行者空間とする。</p>

件 名	舟運活用策の検討
予 算 額	3,100千円
主 旨	<p>東京スカイツリーを中心とした回遊性の高い観光施策の一環として、隅田川はもとより、江東内部河川を活用した舟運の復活は、極めて重要と考えられる。</p> <p>このため、「墨田区観光振興プラン」では、吾妻橋エリアを東京スカイツリーへのゲートウェイ及び水陸交通の結節点として位置付け、吾妻橋防災船着場を平常時には、観光船の発着が可能となるよう再整備を計画している。また、タワーエリアに隣接して流れる北十間川を親水空間として整備する計画も進められており、東京スカイツリーの足下に船着場が整備される予定となっている。</p> <p>こうしたことから、かつて「水都すみだ」と言われた水運を生かし、具体的な方策等について来街者・観光客の増加を目指す検討を進める。</p>

件名	区内循環バス運行計画の策定
予算額	13,113千円
主旨	<p>東京スカイツリーは、墨田区のまちの姿や区民の暮らしに大きな影響が生じることから、区としてもこの好機を最大限活かすための計画的・戦略的なまちづくりを進めている。その取組の一つとして、区内を巡る交通システムとして循環バスの導入を検討し「住んでよく、訪れてよいまちすみだ」の実現を図る。</p>



墨田区